

タンナトリカブト

Aconitum japonicum subsp. *napiforme*

キンボウゲ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



丘陵地から山地の林縁や林内に生える草丈30～80cmの多年草。9～10月に茎の上部の葉のつけ根に、舞楽の装束とりかぶとの烏膏とりがすに似た濃紫色の花をつける。大陸系遺存植物で、日本では西南日本に分布するが、県内ではかなり広い地域に生育し、個体数も少なくない。林縁部の生育地では、植生の遷移により生育環境が変わって衰退した所がみられる。植生遷移の進行や人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真・文：生野喜和人)

県内分布 中津・宇佐低地，英彦山・犬ヶ岳山地，珍珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域，祖母・傾山地

分布域 本州(中国地方)，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
朝鮮半島

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山，祖母傾]